

ふじのくに 静岡みなと通信

vol.24
夏12号
2015.7.28



客船「ダイヤモンド・プリンセス」清水港初入港

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「夏12号」発行に寄せて(牧之原市長) 1
- 「平成27年度港湾関係予算の概要」..... 2
- 港湾海岸における「静岡方式」による津波対策 5
- みなとニュース 7
- みなと自慢(手石港) 11
- 港こぼれ話 13
- 港湾関係行事予定 15



客船「ダイヤモンド・プリンセス」

静岡みなと通信「夏12号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会副会長
牧之原市長 西原 茂樹

港湾は、国民生活と産業活動を支える重要な物流・生産基盤であり、エネルギーの9割及び食料の6割を海外に依存する我が国においては、製造品の輸出、資源や食料の輸入などの貿易が、経済活動と国民生活を成り立たせています。

また、港湾の背後には多くの人口と資産が集積しているため、高潮や津波などの災害から、人命と財産を直接防護する港湾海岸施設の役割は、非常に重要となります。

御前崎港は、静岡県の中央最南端に位置し、外洋航路に近く、背後圏には中西部の工業地域を擁することからも、国際物流拠点として大きな潜在能力を有しております。平成27年4月からは、新たに日本ータイ・ベトナム航路が開設され、既存の中国寧波フィーダー航路、韓国釜山フィーダー航路と併せ3航路体制となり、今まで以上に地域の産業経済の活性化、県民生活の安定を図る上で大きな役割を担うものと考えております。

また、県下最大級の海水浴場として知られる榛原港海岸(静波海岸)や相良港海岸(さがらサンビーチ)は、砂利浜化対策を行い年間38万人が訪れる静岡県有数のレジャー海岸となっており、自然を誇れる海岸として更なる整備が進んでおります。

本誌の発行を通じ、港湾関係者はもとより、多くの皆様に本会の活動状況や港湾関係の最新のニュースや情報をお届けし、今後の港湾の整備や利用促進に一層の御理解、御支援を賜れば幸いに存じます。



相良港



榛原港海岸(静波海岸)



相良港海岸(さがらサンビーチ)

平成27年度 港湾関係予算の概要

静岡県交通基盤部港湾局では、だれもが豊かで快適に暮らすことができる「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を実現していくため、静岡県総合計画に基づき『ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり』、『命を守る危機管理』を主なテーマに、着実に社会資本整備を推進していくと共に、的確な維持管理・更新に努めていきます。

社会資本整備に当たっては、新技術・新工法の採用やコスト縮減など、整備の効率性向上に努めていきます。

●ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり ～陸・海・空のネットワーク機能の拡充～

本県のものづくり産業を支え、国内外との競争力を向上させるため、清水港、田子の浦港、御前崎港の3港を「駿河湾港」として相互補完・機能分担を図りつつ、一体的な整備・運営を推進し、港湾機能を強化すると共に地域の産業基盤である地方港湾の整備を推進します。

◎国際海上コンテナターミナルの整備(清水港)

- コンテナターミナル背後のふ頭用地整備、都市再開発用地の造成を行います。 20億8,000万円
【起債事業[ふ頭用地整備、臨海部土地造成]】
清水港 新興津地区第2バース
- 臨港道路の改良を行います。 2,200万円
【港湾改修事業】清水港 新興津地区
- コンテナターミナルの防波堤を整備します。 7億5,000万円
【港湾改修事業(国直轄施工)】清水港 新興津地区第2バース



清水港新興津地区整備状況

◎国際物流ターミナルの整備(田子の浦港、御前崎港)

- 物流ターミナルの防波堤を整備します。 1億700万円
【港湾改修事業(国直轄施工)】御前崎港 女岩地区
- 大型化した船舶のため泊地や航路の水深を深くします。
現在は、港口部の航路を保全するための調査を実施中です。
4億4,900万円
【港湾改修事業(国直轄施工)】田子の浦港 中央地区
- 泊地の浚渫や沈砂池護岸を整備します。 8,500万円
【港湾改修事業】田子の浦港 港内地区
- 港内の底質に含まれるダイオキシン類を除去し、生活環境の改善を図ります。 6億1,700万円
【公害防止対策事業】田子の浦港



御前崎港防波堤整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)



田子の浦港泊地浚渫状況
(写真提供:清水港湾事務所)

◎競争力のある港づくり

- 港湾競争力の向上を図るため、ポートセールス・ポートセミナーの開催や港湾使用料の減免措置(インセンティブ)の導入などを行います。
【港湾企画振興費】清水港、御前崎港 3,052万円

◎地域産業基盤の港湾整備

- 港振興に取り組む静岡市と協調し、小型船だまりの整備を行います。

3億5,000万円

【港湾改修事業】清水港 新興津地区

- 漁船の水揚げ、休憩用係留施設の確保など、不足している物揚場の整備を進め、地域産業の振興を図ります。

1億2,000万円

【港湾改修事業】下田港

- 岸壁や防波堤、臨港道路、泊地などの改良を行います。

3億9,000万円

【港整備交付金、港湾改修事業等】清水港、伊東港、沼津港、手石港、浜名港



下田港物揚場整備状況



伊東マリンタウン利用状況

ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり ~快適な暮らしを支える生活環境の整備~

臨港地区内の快適な空間や避難地・防災拠点を確保するため、緑地等の施設整備を推進します。

◎港湾、港湾海岸環境の整備

- 港湾海岸の背後に、親水広場や高台などを整備します。
3,600万円
【海岸環境整備事業】熱海港、榛原港
- 快適な公園や潤いある親水空間である人工海浜の整備を行います。
1億4,800万円
【港湾環境整備事業など】清水港、田子の浦港



熱海港海岸渚地区の利用状況



清水港新興津緑地の完成記念式典



田子の浦港富士緑地の利用状況

「命」を守る危機管理 ~災害に強い地域基盤の整備~

安全で安心して暮らせる生活基盤を確立するため、「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」に基づき、海岸堤防や岸壁等の耐震対策や津波対策施設等の整備など、地震・津波対策を推進します。

◎地震・津波対策

- 港湾の防潮堤、津波防災ステーション整備等、津波や台風などによる高潮・高波から生命財産を守る施設等を整備します。

5億7,520万円

【海岸保全(高潮対策)事業など】清水港海岸、御前崎港海岸、沼津港海岸、浜名港海岸他



御前崎港海岸津波対策

- 長寿命化対策と併せ、既存の緊急物資輸送岸壁を新たな被害想定に対応した耐震強化岸壁へ改良しています。

5,000万円

【港湾改修事業(国直轄施工)】清水港



清水港整備状況

- 避難船舶を守り、津波低減効果が期待できる防波堤の整備を行っています。

5億4,000万円

【港湾改修事業(国直轄施工)】下田港



下田港防波堤整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)

- 港内静穏度確保のため設置された防波堤について、BCPの観点から津波に対し粘り強い構造とするための改良を行っています。

9億5,892万円

【港湾改修事業(国直轄施工)】清水港、御前崎港

社会資本の的確な維持管理・更新

計画に沿った点検や補修を行うなど長寿命化を推進し、社会資本の適正な維持管理に努めます。

- 既存港湾施設の延命化のための改良を実施します。
【統合補助事業】清水港、御前崎港、浜名港、田子の浦港等

2億6,220万円

- 港湾施設の老朽化対策(予防保全)に併せて港湾計画を踏まえた機能向上を図ります。
【港湾改修事業(国直轄施工)】清水港富士見地区

6億3,000万円

- 港湾施設の適切な点検診断・維持補修の計画を作成します。
【効果促進事業】清水港、熱海港、下田港、沼津港

1億8,000万円

世界遺産「富士山」を望む美しい港清水港の観光を核とした地域活性化検討調査

- クルーズ船を核とした民間活力による日の出埠頭の交流拠点機能強化の検討などを行い、観光産業、地域経済の活性化を図ります。

2,000万円

【官民連携基盤整備推進調査事業】清水港



富士山を背に走行する豪華客船

港湾海岸における「静岡方式」による津波対策

静岡県では、これまでの東海地震対策を土台とし、東日本大震災から得られた教訓に基づく津波対策を県政の最重要課題の一つに位置づけ重点的に取り組んでいます。

津波レベルと対策の基本的な考え方

(平成23年9月 内閣府中央防災会議より)

比較的発生頻度の高い津波（レベル1津波）

100年から150年程度の比較的発生頻度が高く、津波高さは低いものの大きな被害をもたらすもの

- 人命保護に加え、住民財産の保護、地域活動の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から海岸保全施設を整備
- 海岸保全施設等については、引き続き発生頻度の高い津波高に対して整備を進めるとともに、設計対象の津波高を超えた場合でも、施設効果が粘り強く発揮できるような構造物の技術開発を進め整備していく



津波対策施設の整備（ハード対策）

最大クラスの津波（レベル2津波）

1,000年に1度程度と発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波

- 住民の生命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸に、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策を確立
- 被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方に基づき、対策を講ずることが重要である。そのため、海岸保全施設等のハード対策によって津波による被害をできるだけ軽減するとともに、それを超える津波に対しては、ハザードマップの整備など、避難することを中心とするソフト対策を重視しなければならない。



多重防御（ハード対策＋ソフト対策）

静岡県に目を向けてみると…

- ◆ 震源域に近いため津波の到達時間が短く、多くの人口・資産が集中する低平地において広範囲に甚大な被害が想定される。
- ◆ レベル1津波に対してハード整備を行うという方針は変わらないが、地区によっては、レベル1津波高が高く、観光や漁業を主産業とし、生活とその美しい景観や自然環境を持つ海岸線が密接に関わりあっているため、その高さでの防潮堤の整備が困難で**生活と津波対策の両立が課題**となっている。



この解決策として、最大クラス(レベル2)の津波も含めできる限り被害を最小化することを目指した「静岡方式」により津波対策を行っていくこととした。

静岡方式とは…

静岡県の津波対策「静岡方式」 ～「富国有徳ふじのくに」における新しい「国土強靱化」のかたち～

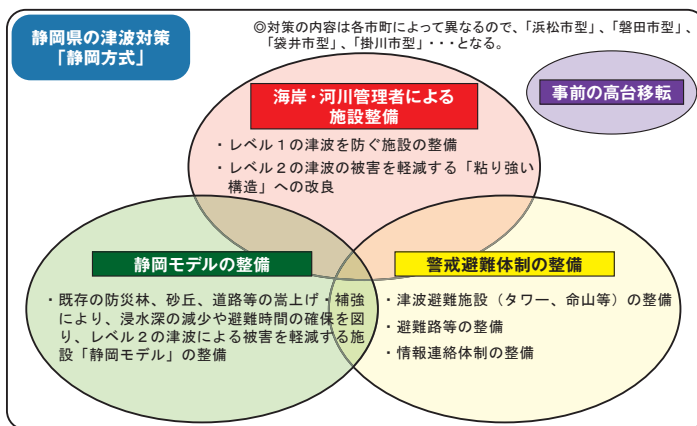
「静岡方式」とは…

○本県特有の課題（※）への解決策として、最大クラスの津波（レベル2の津波）も含めてできる限り被害の最小化することを目指した津波対策が「静岡方式」である。

- ①「静岡方式」は、地域の文化・歴史・風土、及び暮らしに根ざしたものでなければならない。
- ②「静岡方式」は、自然との共生及び環境との調和との両立を目指さなければならない。
- ③「静岡方式」は、地域の意見を取り入れながら、県と市町が協働で推進しなければならない。

※震源域に近いため津波の到達時間が短く、多くの人口・資産が集中する低平地において広範囲に甚大な被害が想定される、という課題。

< 静岡県の津波防災対策「静岡方式」のイメージ >



< 「静岡方式」のイメージ図 >



伊豆半島沿岸は、特にL1対応の防潮堤の整備について、景観や産業、利用等との調和が求められており、地域の津波対策のあり方に関しては、避難対策を含め住民とともに検討を行う事が必要であり、「**地区協議会**」を設置して地元との合意形成を図っていきます。

津波対策施設の整備方針や浸水シミュレーション等の検討結果を地区協議会で提示し、地域の生活様式や防災理念にあった津波対策の検討を地元住民とともに進め、地域の安全度向上を目指してまいります。

地区協議会の実施状況

伊豆半島沿岸は海岸線が複雑に入り組み、それぞれの地区により津波高が変化します。また、それぞれの地区により産業や人口等の地域特性が三者三様のため、50の地区に分けて地区協議会の設置を予定しています。地域の皆様に津波に関する情報をより広く、深く知っていただき、避難計画と結びつけた津波対策を検討していきます。



熱海市網代地区 実施状況



熱海市伊豆山地区 実施状況



みなとニュース



シンガポール・中国広州・香港で清水港のポートセールスを実施

静岡県・静岡市・清水港利用促進協会で組織する「清水港ポートセールス実行委員会」は、平成27年1月26日(月)から30日(金)の5日間、野知泰裕静岡県交通基盤部長を団長とする総勢21名のミッション団をシンガポール、中国広州及び香港に派遣し、官民一体でポートセールスを実施しました。

【船社訪問】

シンガポール及び香港では、当地に拠点を構える定期コンテナ船運航会社5社(日本郵船、商船三井、川崎汽船、APL、OOCL)を訪問しました。そこで、日本の真ん中に立地し、半径300キロメートル圏内に首都圏・中部圏・近畿圏の日本3大都市圏を包含する清水港の地理的優位性、国内有数の「ものづくり県」として背後に潜在的貨物を有する経済性、各種のインフラ整備による発展可能性などについてプレゼンテーションを行い、既存航路の継続と新規航路の開設を強く訴え掛けました。船社からは、特に、平成29年度の開通を控えた中部横断自動車道による貨物需要の創出に期待を寄せる声が聞かれました。



船社訪問するミッション団

【中国広州で「清水港セミナー」を開催】

中国の広東省は、改革開放以降、中国経済のフロントランナーとして目覚ましい発展を遂げ、現在は、省別のGDPで同国第1位に位置しており、加えて、日中貿易の約26%を占め、日系企業約2000社が活躍するなど日本との経済的な結びつきが最も強い地域です。

広東省の省都である広州市は、トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業などの自動車メーカーや関連企業が数多く進出しています。そのため、静岡県との経済的関係は強く、清水港と広州市近郊の港湾(香港、蛇口)との間に、定期コンテナ船が週5便運航するなど、取引先として極めて重要な位置づけにあります。

その広州市において、製造業、商社、船社、金融機関に加えて、在中国日本国大使館参事官、在広州日本国総領事館領事といった政府関係者を交え、総勢120名を超える参加者の下、「清水港セミナー」を開催しました。

セミナーは、団長の挨拶を皮切りに、DVD放映、プレゼンテーションで構成する「セミナー」と、立食形式の「懇談会」の2部構成で行われました。参加者からは、「清水港のことを非常に良く理解できた。この種のセミナーには数多く出席しているが、非常に精度が高い。」といった声が聞かれるなど、大変盛況でした。

清水港ポートセールス実行委員会では、今後も、清水港と関係性が強い外国都市においてセミナーを開催し、PRを行うことで、更なる貨物の獲得に繋げていきます。



中国広州における「清水港セミナー」の様子